

平成27年度 浦和麗明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校目標		建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊ぶ前進する人」を育てることを探求する。				達成度	次年度の課題と改善策	学年関係評価 実施日 平成28年5月27日 学年関係者からの意見・要望 評価等
本年度の目標		(1)「学方向上と進学実績の向上」(2)「規範意識の向上と基本的生活習慣の定着」(3)「安心・安全な教育環境の整備」(4)「六つの生徒指導心得」の徹底。						
評価項目	現 状	具体的の方策	評価指標	経過・達成状況等				
1 教 務 教員授業力 強化の取組み (校務関係) 教育環境の 充実	・科目により得意、不得意の差が見られる。 ・予習、復習、および授業中の学習態度の徹底が不十分である。 ・コース制以外の教科に好き嫌いがある。 ・学習に対する意欲を持つ生徒が増えつつある。 ・新校舎改築の一方、1,2号館を中心に施設の老朽化による修繕が頻りに施工されている。しかし、改修すべき点を残している。 ・女子高のため、特に不審者侵入防止等、安全管理対策に重点を置くとともに、災害対策においても、さらなる意識の共有化、備蓄品の充実が求められている。	・生徒全体の基礎学力の底上げ。 ・生徒の興味、関心をひくような授業の組み立て。 ・予習復習の意義の徹底 ・研究授業の実施により、授業力を上げる。 ・教科指導部と連携し、スタディサプリにより能力向上を図る。 ・学習に対する意欲を持つ生徒が増えつつある。 ・定期点検による現状把握 ・毎日の施設、備品安全管理点検 ・衛生面の定期点検 ・避難訓練等、防災教育の充実 ・災害時の非常食確保 ・救急救命講習の実施 ・節電の奨励	・基礎学力の定着 ・教科への興味、意欲の向上 ・学習習慣の定着 ・各教科の授業満足度の向上 ・授業力の向上 ・試験前の学習習慣の定着 ・日常の安全対策確保 ・耐震化を含む構築物の安全性の確立 ・防災対策（備蓄品を含む）の確保 ・環境衛生面の安心、安全の確保 ・美観等の確保	・28年度より教科指導部によるスタディサプリが開始なので、その成果を期待したい。 ・チャイムからチャイムまでの授業という意識付けが進んでいる。 ・27年度より研究授業を実施できたので、今年度はさらにそれを進めたい。 ・以前に比べて、定期試験前日放課後残って学習する生徒が増えている。 ・火災報知器、非常放送、消火設備、汚穢水槽の定期点検実施。 ・校舎施設、備品の安全点検の実施。 ・空室、照明、食品、飲料水の定期点検の実施。 ・体育館照明LED化。 ・災害対策備蓄品の確保 ・グラウンド用備蓄品の確保 ・通報訓練および防災意識の徹底、救急救命講習会の実施（AED使用講習含む）。	B	・研究授業の実施 ・定期試験への意識向上 ・成績向上における不備をなくするための教員意識の徹底をさせるため、新しいプリントを作成、配布する。 ・安心、安全な教育環境を確保するため、校舎施設の定期点検等を継続する。 ・新校舎建設に対する教室配分 ・学校安全対応マニュアル（防災計画、危機管理）の充実	・「科目により得意、不得意の差が見られる」とあるので幅広い取組みにより学力の向上につなげる必要がある。 ・「コース制以外の教科に好き嫌いがある」とされるが、苦手とされる教科であっても、生徒の興味・関心を引く授業の取組みが必要である。 ・安心安全な教育環境の確保のため、日頃の校舎施設点検の徹底を図る必要がある。 ・災害時の対応についてはホームページに掲載されるが、それにもなって出来るだけ早い対応が必要である。	
2 教科指導 教科指導の 充実	・上位大学への合格者が少ない。 ・大学進学を前提とせず、中堅私大に挑戦する意欲を持つ生徒が少ない。	・常に模試を意識した授業や土曜講習を実施する。また、新入生に対しては効率の良いカリキュラム改定を行う。 ・特選・特進コースを中心に、教科単元ごと的小テストを授業内で積極的に行い、基礎学力の定着を図る。	・模試の途中経過と最終的な合格実績 ・検定合格者数の増加と合格実績	・まだまだ十分とは言えないが、上位大学への合格者数も増加した。 ・中堅私大の合格者数も増加したが、来年度以降更に伸ばせるようにしたい。	B	・予備校受験による模試対策の土曜講習も開始するので、上位大学を目指す生徒を更に伸ばしたい。 ・スタディサプリと連動した授業を次年度から導入するので、良い意味でのシステム化を図りたい。	・生徒の要望を聞いて、放課後自習時間を確保してくれている。	
3 進路指導 進路指導の 充実	・特選の生徒の増加により受験先の多様化が期待できる。 ・保育コースの生徒の多くが短大を志望している。 ・医療系への進学希望が年々増加している。 ・専門学校希望者が5割おり、コースの延長線上に進路を取る生徒が多い。 ・就職希望者が昨年より大きく減少している。	・進路講座の充実 ・基礎学力テストの活用 ・医療模試の活用 ・「進路の栞」によるデータの提供 ・進学（英語・小論文・面接・医療系）講習 ・就職（一般常識・適性検査・職場見学）講習 ・二者面談による細かい指導 ・四者面談による出願指導 ・進学・就職ともに面談指導・報告書提出の徹底 ・進学資金の紹介（面談資料）用意 ・大学・短大希望の保護者説明会の実施	・特選の一般受験における成果 ・特進・進選コースの進路 ・保育進学の進路 ・福祉進学の進路 ・総合進学の進路 ・就職状況 ・進路未定者の状況	・信州大学、埼玉県立大学や上智、法政、津田塾、日本女子など上位校への合格者が出た。 ・保育・福祉進学の短大が中心であるが希望者は全員決した。 ・総合進学からも東京農大2名、武蔵野大、東洋大、千葉工業大、武蔵野音大等大学進学者が大きく伸びた、専門学校は変わらず、就職者が大きく減少した。 ・就職は大手への内定など人手不足もあり順調であった。 ・1名出願せず未定となった生徒が出た。	A	・年々医療系への希望者が増加しているため、模試テスト・講習等の充実を図る。 ・特選については受験校数について保護者に確認することが必要 ・進学資金の問題→学生支援機構・国の教育ローンの配布、説明の徹底、保護者会等での説明を行う。 ・将来をにらんでの就職から進学への転換を呼びかける。	・進学実績の向上として、特選コースの一般受験による国立大学を含む上位大学の合格、他コースからの中堅大学合格者数の増加、その他の進学者の増加が評価できる。	
4 生徒指導 生徒指導の 充実	・元気のよい挨拶（しているが声が小さい）をする生徒が見受けられる。 ・規範意識や交通安全に対する意識が希薄な生徒も一部見られる。 ・遅刻者少ないものの、ギリギリに登校する生徒が見受けられる。 ・学校生活を意欲的に送ることができない生徒や基本的な生活習慣が身につけておらず不安な生活に流れる生徒も見られる。	・生徒通門門において、生徒会等代表者による挨拶運動を行い、生徒間の挨拶の活性化を図る。 ・全職員による積極的な玄関、廊下の挨拶の徹底。 ・玄関と教室での遅刻者の二重チェック。 ・生徒心得、夏休みの心得を全校生徒に配布し、長期休暇前のLHRで指導。 ・1年生全員をクラブ活動に登録させ、継続的に活動させる。 ・通学路における交通安全指導。	・遅刻、欠席者の減少 ・問題行動の減少 ・頭髮服装等違反者の減少 ・退学者の減少 ・自転車運動違反者の根絶 ・交通ルールの遵守 ・課外活動の活性化 ・通学路の環境整備	・生徒代表者による挨拶運動運動により、登校時の玄関（生徒通門）での対応は徐々にではあるが増加してきた。 ・学期ごとに行われる全体の頭髮等風紀指導等により全体的には落ち着いている。 ・警察、鉄道警察隊と連携をとり講師を依頼して防犯・交通安全指導を取り入れている。 ・専任カウンセラーによる精神的なケアに力を入れている。 ・自転車マナーアップの意識の向上を図っている。	A	・担任による生徒指導の徹底及び学年主任との連携を図る。 ・8時30分（始業5分前）登校および玄関指導の挨拶の徹底を図る。 ・遅刻、欠席者の状況把握と共に早期指導に重点を置き、問題行動や退学者の抑止や防止に努める。 ・友人関係の変化に着目し、いじめ問題にも積極的に取り組む。 ・学校行事、課外活動に参加を促し、活気ある学校にする。	・生徒指導全般と挨拶運動の取組みが評価できる。学校全体において落ち着いた環境が保たれているようだが、欠席・遅刻者の減少に取組み問題行動の抑止を図っていない。 外部からの来校者への挨拶をさらに徹底していくべきである。	
5 広 報 広報活動の 充実	・定員320名を満たせていない 入学者・受験者目標数 単願200 併願130 併願受験者数 1400名 ・成績上位コースの入学者を増やす ・特選・特進・進学コースの人数を増やす。 ・充足率100%を目指す ・塾からの受験者数を850名に増やす	・校内イベントシンプル開催で、対象者に合わせたアプローチを実施する。 ・体験入学による単願者確保 ・説明会・個別相談会による併願者確保 ・特選・特進コース充足 ・競合する普通科進学系コースの特色ある取り組み（スカイ・イブリ、NHK講座）を効果的に発信し（担当者説明、掲載紙）受験者数増加に繋げる。 ・塾訪問の強化 ・地域個別相談会実施会場 強化地区（高崎線・宇都宮沿線）を8会場増やす	・入学者数 ・各コース定員の充足率 ・奨学生数 ・イベント参加数・相談件数 ・塾からの受験者数 ・強化地区からの入学者数	・入学者数286、 ・併願受験者数 1263 ・奨学生の数 昨年比+10 計23 ・校内イベント参加者数の減少 相談件数 減却、相談率上昇 ⇒進学コース充足率75.0% ・塾からの受験者数約932名 ・強化地区からの入学者数の減少 ・高崎線沿線（上尾・伊奈・北本・鴻巣）急増 +12 ・宇都宮沿線（蓮田・白岡・幸手・加須）が減少 -6	B	・特進Ⅱ類、進学αコースの増設と福祉・ベットの募集停止に伴う定員人数配分の変更を図る。 ・秋以降、新しい情報を発信することで、興味・関心を図る。 （新体育館・新校舎の写真掲載予定） ・受験者数が多い地区、強化地区（大宮、高崎線・宇都宮沿線）からの入学者増加を図る。 ・地域個別相談会の充実を図る。 大宮地区対象会場 4会場（新3） 上尾・桶川地区 4会場（新1） 蓮田・久喜地区 3会場 武蔵野線沿線 8会場 ・新たな進路指導・教科指導との連携、PR HP掲載をより迅速にし発信する。	・定員320名の確保に向けた取組みが必要である。そのため説明会と地域個別相談会の充実を図ってほしい。	